

質疑応答

関西大学化学生命工学部 教授 片倉 啓雄

参加者 A : 素晴らしくて分かりやすい話を大変ありがとうございます。A 大学、参加者 A と申します。先生の話を聞いていると、素晴らしくて分かりやすいんだけど、実際に教える時に気づかせるというのは、先生にいくつかヒントは仰って頂いたんだけど実はかなり難しいような気がするんですね。先生はどの辺のところが一番視点を置かれたのか。

片倉 : 質問を多用するということですね。私のこのスライドのほとんどは、立場を入れかえて考えてもらうというのが一番基本にあります。その立場を入れかえる時の材料を提供するのが私の授業の組み立てになっています。だから「こうしなさい、ああしなさい」ではなくて、「こういう立場になったときに皆さんはどう感じますか、どういう風に考えますか」という問いかけが主体になっています。

参加者 A : その場合、質問と実際の割合というのはどれ位に体感で考えておられますか。

片倉 : これもなかなか難しいのですが、3分の1位は質問の時間に充てるよう努力しています。あとは、実際に授業する時はグループディスカッションですね。グループディスカッションが3分の1位入っています。そこで活発な意見が出るように、色んな仕掛けとか工夫とかはしております。

参加者 A : それは何十人位？

片倉 : 110人のクラスでやっています。1グループ7人ないし8人。ちょっと多めなのですが、これも工夫があって、7~8人でもちゃんと議論が進むように仕掛けをしています。

詳細は総合討論の時にもまた。